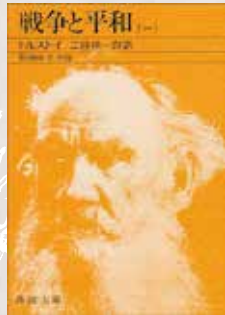


宮本輝の推薦図書

多感な10代に読書に没頭した宮本輝氏。

エッセイ集「二十歳の火影」の中では、図書館で手当たり次第に本を読んだことを回想している。ここでは「大学時代に読んでおきたい長編小説」として挙げた4作品を紹介。

1. 戦争と平和



工藤精一郎訳（新潮文庫）

1812年のナポレオンのロシア侵入という歴史上で実際に起こった出来事を中心に繰り広げられる長編小説。登場人物はナポレオンやクトゥゾフ将軍といった実在の人物を含め、559人に上る。「真の歴史は、数百万の民衆の生活から成り立つものである」という考えのもと、王侯貴族から農奴まで、ロシアの人々の生きる姿を描いており、戦争だけでなく、文化や社交界といった当時のロシア社会の様子に幅広く触れることができる。

著者 レフ・N・トルストイ
(1828-1910)

ロシアを代表する小説家。地主貴族の四男として生をうける。従軍を機に「幼年時代」等を発表し高く評価される。1862年の結婚をきっかけに「戦争と平和」「アンナ・カレーニナ」を発表。幸福生活を送る中で私有財産を否定するようになる。1901年にはロシア正教会から破門され、1910年、家出の10日後に鉄道の駅長官舎で一生を終えた。

2. 夜明け前



（宮波文庫）

藤村最後の長編小説で、自身の父親をモデルに幕末を描いた作品である。主人公の青山半蔵は信州木曾谷の馬籠宿（現在の岐阜県中津川市馬籠）に生まれる。激動の時代を生きて国学に傾注していた半蔵は、大政奉還の知らせを受け王政復古の実現に心を躍らせるが、新政府は彼の待ち望んでいたものではなかった。政府のため、故郷の村民のため、報われぬ努力を続ける半蔵は、次第に精神を蝕まれていくのであった。

著者 島崎藤村
(1872-1943)

詩人、小説家。筑摩県馬籠村（現在の岐阜県中津川市）に生まれる。学校教師として働きながら詩を発表する。教職を辞したのちに「破戒」を発表。夏目漱石らの称賛を受ける。1935年に日本ペンクラブ初代会長に就任、翌年アルゼンチンで開催された国際ペンクラブ大会に日本代表として出席した。1943年に大磯の自宅で「東方の門」執筆中に倒れ、71歳で逝去。

3. 昆虫記



（宮波文庫）

「ハチはどのようにして狩りを行うのか」、「フクロガシはなぜ糞を転がすのか」といった昆虫の生態を、著者自身による観察と考察を行い、30年以上をかけてまとめ上げた10冊の大作である。宮本氏は2019年に行われた真銅学長（当時は学長代理）との対談時に以下のように評価している。

「ファーブルが学者として信頼できるのは、分からないことは「分からない」と正直に言ったからです。（中略）僕、もう1回全10巻を読みたいですよ。」

著者 ジャン＝アンリ・C・ファーブル
(1823-1915)

フランスの博物学者。1823年、南フランスに生まれる。教師として生計を立てるかわら、独学で数学、物理学、博物学の学士号を取得。30歳を過ぎた頃、昆虫の観察に目覚め、研究論文を次々に発表する。55歳でセリニャンに移住し自宅兼研究所で昆虫の観察に打ち込む。有名な「昆虫記」はこの時代の観察記録をまとめたものである。1915年に死去。91年の人生だった。

4. レ・ミゼラブル



佐藤朝訳（新潮文庫）

19世紀前半、混迷の時代の民衆の暮らしぶりを通じて、人間愛を描いた長編小説である。貧しさに耐えかねてパンを盗んだことから、19年の間投獄されていたジャン・ヴァルジャン。出獄後、再び盗みをはたらくが、その時に会った司祭の慈悲深さに改心し、マドレーヌと名乗り善行を重ね、遂には市長の職を手に入れる。善政で人々を幸福にしようとするジャンだが、彼の過去を暴こうとする者との出会いをはじめ、次々と思わぬ出来事に見舞われ、運命に翻弄される。

著者 ヴィクトル＝マリー・ユゴー
(1802-1885)

詩人、小説家。フランスのブザンソンに生まれる。政治への関わりが深く、ルイ・ナポレオンの帝政樹立クーデターに反対してベルギーへ亡命。「レ・ミゼラブル」は19年にわたる亡命時代の作品である。1870年に帰国後も創作を続け、1885年に亡くなると国葬が営まれた。「レ・ミゼラブル」や「ノートルダム・ド・パリ」はミュージカルや映画としても親しまれている。



宮本輝氏、ホームカミングデーで真銅学長と対談

2019年6月30日、総持寺キャンパスにて追手門学院大学校友会結成50周年を記念して宮本氏と真銅学長（当時は学長代理）が「青が散る」から「野の春」まで」というテーマで対談を行った。その中で「若いときにいい小説を読むべきなんです」「ちょっと俺、背伸びせんと読みきれへんかなっていうぐらいの、そういう文学作品に挑戦してもらいたい」と話し、上の4作を挙げられた。「誰もがその題や作者の名前は知っているが、意外と完読した人は少ない」と推薦された作品に挑戦してみたいだろうか。